

鍛える英語教室

7月15日(金)に2年4組で酒井惣伍先生による英語の研究授業が行われました。研究の手だてに沿って振り返ってみます。

《研究の手だて1》リーディングスキル

(1) 学習課題の「聴写」と「共書き」

酒井先生は、学習課題を口頭で生徒に伝えました。生徒はそれを一生懸命ノートに書こうとしています。学習課題は「AIの時代、英語の勉強は大切?自分の考えを英語で表現しよう」です。そして、先生が黒板に学習課題を書きます。生徒はそれを見ながら書いていきます。スピーディです。適度な緊張感があります。

(2) 本時に取り入れた視点は「照応解決」

「研究副主題との関連」には、「AIのことを指しているitと仮主語itを区別させ、より解像度の高い英文理解ができるように指導する。」とあります。また、「指導過程」には、「◎手だて①」として、「代名詞Itが何を指しているのかについて考えさせ、より解像度高く内容を理解できるようにする。(照応解決)」とあります。酒井先生は、より解像度の高い英文理解のことを生徒には「もう少し深く読んでみましょう」と働きかけていました。

《研究の手だて2》自力解決

(1) AIによる英語翻訳について考えるための4分間

全員の生徒が集中して取り組んでいました。酒井先生は、4分間の中で机間指導をしていました。取り組んでいるかどうかの机間巡視ではありません。生徒の記述内容を見てアドバイスをしていました。また、途中で「答えは一つではないと思います」という全体へのアナウンスもしていました。

(2) Itについてのmetamojiによる投票に3分間

4択の問題が設定されていました。生徒がどれを選択したのか、瞬時にグラフとして表示されました。ここが、照応解決の視点から、より解像度高く内容を理解させようとした場面です。タブレットを使用したのは、この場面のみでした。

(3) これからの社会で英語の勉強が必要かどうか5分間

自分の考えを表現するために、辞書を使う生徒が多くいました。ここが、本時のねらいに直結する場面であり、評価をするところです。生徒は、ここまでずっと全員が集中して取り組んでいました。

《研究の手だて3》振り返り

(1) 視点を明確にした振り返り

はじめに考えたことと比べて考えは変わったのかという視点で自分の考えを書かせていました。

(2) 振り返りが蓄積された「振り返りシート」

生徒は毎時間、振り返りシートに書いています。そこには、学びの足跡が残されています。

【全体を通して】

① 鍛える英語教室

間髪入れずにテンポよく授業が進んでいきました。例えるならば、長距離の集団走でしょうか。それでも生徒は、数分ずつの自力解決、ペア学習、起立しての全員での音読、タブレット、そして振り返りまで、全員の生徒が熱心に取り組んでいました。4月からの積み上げにより、学習訓練ができています。まさしく“鍛える英語教室”です。授業者の話も無駄がなくシャープです。それでいて、語り口はソフトです。

② ノート指導

生徒のノートには、学習課題と本時で学習した重要表現がまとめとして書かれてあります。授業者は、ワークシートに書く場面とノートに書く場面とを明確に指示していました。

③ ビデオ撮影

教室の後方には、ビデオカメラが固定されていました。授業者は、後で自分の授業を見て多くのことに気づくはずですが、この方法はむずかしくはありません。やるかやらないかです。

1学期に8回の研究授業

野田中学校では、1学期中に8回もの研究授業が行われました。今年度は、参観者を4人以上募ってという提案がありました。このスタイルも定着してきたようです。2学期には、さらに研究授業が行われることで、授業改善が進み、生徒の学びも変わってくるものと期待できます。